

各種新聞圖解の内  
横濱毎日新聞  
第六百廿二號

横濱港吉田町。清正公の境内に鶴壽  
と号する揚子場。矢取女のおみさことりへ  
廿六充ぬ年齢頗る姿色ゆくと  
當と争ふ實多き。中ふ鍛冶工定吉ハ  
おみさの意慕の念深く。氣息の艶言の  
餅引を逆せる。鍛治チナイフと煩悩の  
火を銚心を銷き。吹草祭の頭更蘭て  
おみさの許に至る小下幕人の音信の決句  
持病の癩と偽り強面詞定吉令宵  
本望遂あんと慮し胸の鉄極もトンケン  
コンと打もぐされ。兼て用意やまろり  
らん懐刀取出し自ら咽へ突立まら。這  
りと驚くおみさの現れ。短刀拔取投付  
しが横ふ當りて怪我もあ。其身も  
死より至らねど。獨夫の情死ん愚中の  
愚奇中の奇話といふべし。

博々堂鈍々記



政栄堂

解高之丞

